

日本農学アカデミーへの期待

山 下 興 亜

第 18 期日本学術会議第 6 部長
名古屋大学副総長

第 18 期日本学術会議第 6 部（農学）の部長を務めることになりました。日本農学アカデミーに対する期待を述べさせていただきます。第 17 期の日本学術会議第 6 部（農学）は長堀金造部長を中心に日本農学アカデミーの設立に尽力してきました。日本学術会議は国の行政機関の 1 つとして、学術の振興や普及等に関する審議を主要な任務としていまして、審議結果を科学研究や教育の現場で多面的に実施することは不得意であります。ところで、今日、農学を含むすべての学問領域や分野が、それぞれ自らが解決しなければならない多くの課題に直面しています。そして、その解決は従来の路線の改良・改善ではなく、新たな視点に立った発想の転換が求められています。この課題解決にはすべての農学、農業及びその関連分野の科学者、研究者がそれぞ

れの職責をもとに等しく向き合わなければなりません。日本農学アカデミーはこの分野に関して豊富な経験、適切な判断力、そして強力な組織力を結集した、いわば日本の農学の知の中心部隊であります。刻々変わる信号燈としてではなく、将来を照らす燈火として発光されることを期待します。

日本学術会議第 6 部会員はその経験者を含め積極的に日本農学アカデミーに参加し、日本学術会議第 6 部がこれまでに培ってきた知恵と技で貢献することを誇りに存じています。そして、本アカデミーが学術の論理と組織原則に則って所期の目的を達成されるために鋭意奮闘されることを心から期待します。